

パーマロイと三菱地所が共同しマンションを跡地に建設する計画

住環境を守るための近隣住民のつどい

5月14日東中野集会所で開かれた報告会で、中野パーマロイと三菱地所は共同してマンションを建設すると説明しました。質問しても詳細は明らかにしませんでした。わかったことから、日本閣跡地のように、超高層のマンション2棟が建つ可能性も考えられます。地域の住環境にとって見過ごせない大きな影響を与える危険が迫っています。

そこで住民有志が相談し、つぎのように近隣住民に広くよびかけてつどいを開くことにしました。ぜひご参加ください。

日時 6月1日(月)午後7時～8時半

場所 東中野小学校校舎の集会室第1(校庭奥)

よびかけ人 近隣住民有志 16人

超高層マンション2棟建設の危険

2社の説明では、パーマロイ社が土地(4800㎡)を提供し、三菱地所が建設費を出して建設し、負担に応じて建物の持ち分を決めます。三菱地所は住戸を分譲し、パーマロイは、社長、社員の住宅にあて、本社事務所を置き、一部を賃貸にします。計画を区と協議していくといっています。

日本閣のように、建設した会社が1棟、土地を提供した社が1棟の2棟を建設する計画が有力とみられます。25階建てという情報もあります。

土地は、現状では幅6m以上ある道路には接していないため、高さ15m以上は建てられないなどの制限があります。しかし、2社は「区と協議する」といっています。道路拡幅、敷地分割など法の抜け穴を使って、現状の容積率を上回る建築を可能にするなど、特別な「開発許可」を得る危険があります。日本閣がそうでした。

パーマロイ社は、開発業者9社にプランの提出を求め、そのなかから三菱地所に決めました。計画は決まっていないとくりかえしますが、採算などの見通しがたったから2社は建設を決めたのであり、建設計画はすでにあるとしか考えられません。

2社は、住民の説明会開催要求に、7月開催を検討すると答えましたが、このままでは、決まった計画を住民に押しつけるだけの一方的な説明会に終わる危険があります。

住宅地の真ん中に超高層2棟が建つことは、日照、風害など住環境に重大な影響を与えます。地域の住環境を守り、資産価値を守るためにも、近隣住民が共同して、都や区に法をすり抜けるような「開発」を認めないよう要望していきましょう。